



M.K さま

『モチモチの木』

**斎藤隆介 作
滝平二郎 絵
岩崎書店**

今から二十七年ほど前、私が幼稚園に通っていたとき、祖父が心臓病で病院に運ばれた。主治医は、「重症で命の保証ができない」と宣告した。

両親を始めとする親族が右往左往する中、私は今まで感じたことのない恐怖を感じていた。祖父は私と一緒に遊んでくれたり、いろんなところに連れていってくれたりする優しい人だった。私は祖父のことが大好きで、祖父がいなくなるのは嫌だった。自然と涙があふれた。

そんなとき、幼稚園で読み聞かせてもらった『モチモチの木』の話を思い出した。 怖がりの豆太は、祖父のために勇気を出して夜道を駆け抜け、医者呼びにいった。 私も祖父のために何かしたかった。でも、何をすればいいのだろうか？

私は祖父のためにできることを懸命に考え、神様に祈ることにした。夜になると、祖父の写真を手にして「お祖父ちゃんを助けてください。神様、お願いします」と拝み続けた。その姿は鬼気迫っていたようで、両親はやめるようにと何度も促した。しかし、私は願うのを止めなかった。

結局、祖父は一命をとりとめた。祖父が助かったことを知らされると、私は大泣きして喜んだ。祖父が退院すると、家で快気祝いを開いた。宴もたけなわの頃、祖父は不思議なことを口にした。

「三途の川を渡りかけたとき、神様がやってきてこう言ったんだ。『お前の孫が懸命に頼むのでお前を現世に返すことにした。孫に感謝するように』ってな」

私は、「神様に願いが届いたんだ」と思った。

それから祖父は二十年以上生き、私は祖父とかけがえのない思い出をたくさん作ることができた。これは、幼いときに祈ったお陰だった。

私が「神様に祈ろう」と思ったのは、『モチモチの木』を読み聞かせてもらったからだ。『モチモチの木』のお陰で、私は祖父と二十年以上も余計に過ごすことができた。だから、『モチモチの木』には感謝してもしきれない。

『モチモチの木』ありがとう。